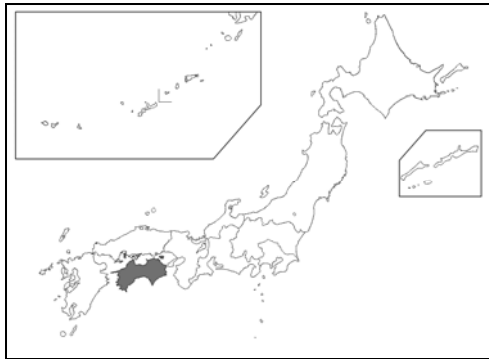


(9) 四国



四国地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

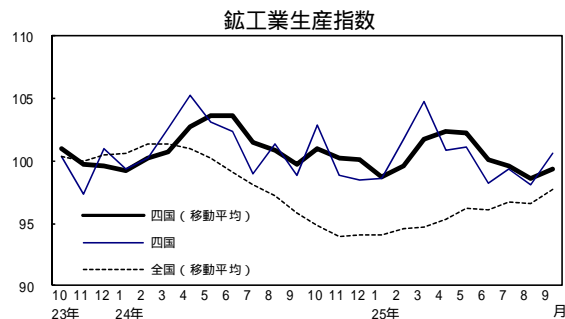
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 8 月)	今回 (平成 25 年 11 月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	持ち直し	
個人消費	持ち直しの動きに一服感	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

7～9月期には、化学は、メタクリル樹脂やカプロラクタムが減少に寄与したこと等から減少した。電気機械は、スマートフォン向けが好調で蓄電池や線形半導体集積回路が伸びたこと等から増加した。食料品は、清涼飲料、その他菓子等が増加に寄与したこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、化学繊維機械やジブクレーン等が減少に寄与したこと等から減少した。非鉄金属は、ニッケル地金等の生産が増加したこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
化学	22.9	6.4	0.4	0.6	11.7	8.9
電気機械	15.8	8.1	3.4	1.3	0.3	3.1
食料品	10.5	2.4	0.3	2.2	3.2	3.5
はん用・生産用・業務用機械	10.0	7.5	10.3	9.9	20.0	37.2
非鉄金属	8.0	2.3	4.8	2.1	0.7	4.0
鉱工業	100.0	1.7	0.6	1.2	1.2	2.5

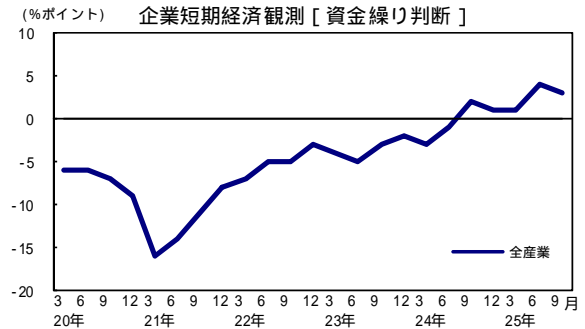
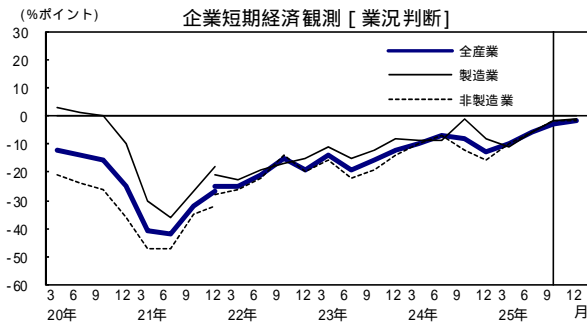
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7～9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

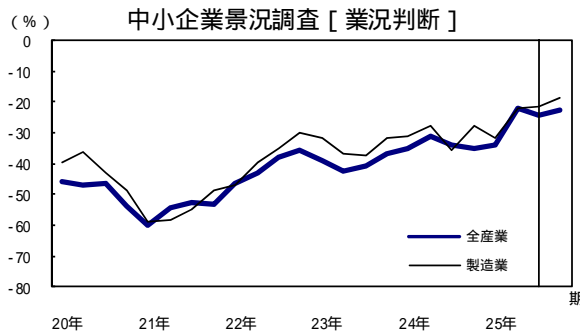
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばい。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。

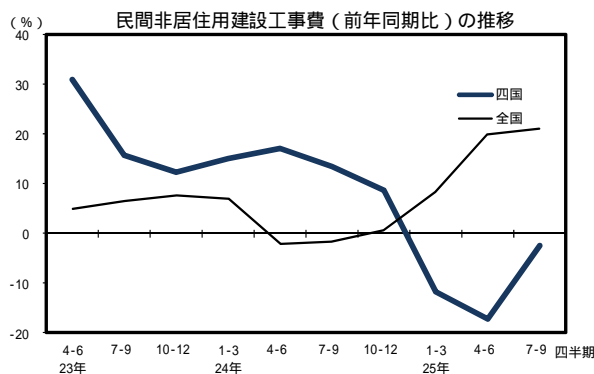
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]
「天候不順による市場入荷量減少の影響で高値になっており、需要の回復によるものではない(農林水産業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度価
全産業	19.8	12.5(8.1)
製造業	30.1	22.0(15.1)
非製造業	4.9	2.5(0.4)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.0%減、8月は同1.6%増、9月は同0.9%減となった。

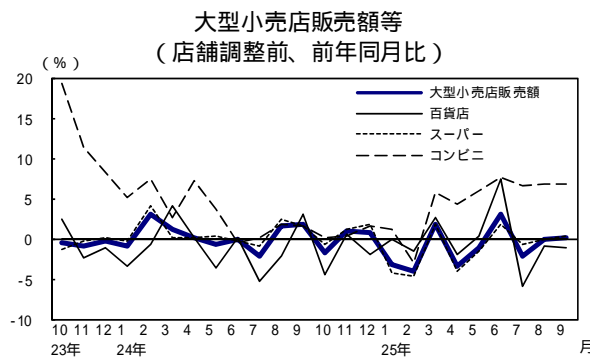
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、夏のセールが6月に前倒しされた影響などで、夏物衣料が低調であったこと等から前年を下回った。8月は、時計などの高額商品が好調であったものの、猛暑の影響から秋物衣料の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。9月は、食器類が低調であったことに加え、中下旬の残暑の影響により秋物衣料などの動きが鈍かったこと等から前年を下回った。スーパーは、飲料やアイスクリームなどの夏物商材が好調であったものの、夏物衣料などが低調であったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

四国地域の家計動向関連DIは、46.8 となり前月より2.4ポイント低下した。

「店頭売上、外商売上ともに前年を下回っており、特に店頭売上が大きく落ち込んでいる (一般小売店 [書籍])」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

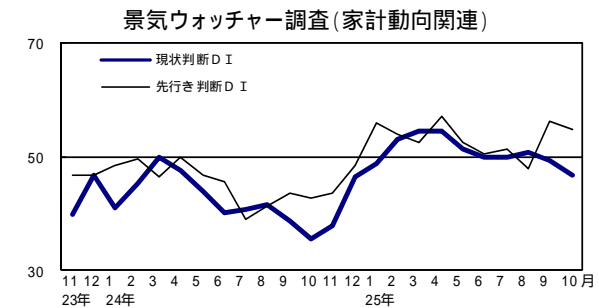
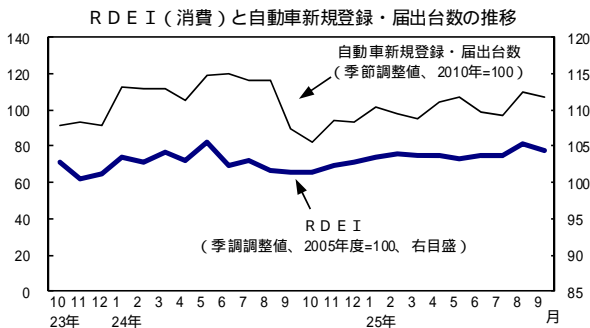


	25年7-9月	25年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.8	0.0	1.6	0.9
大型小売店(*2)	0.7	2.1	0.0	0.1
百貨店(*2)	3.1	6.0	0.9	1.2
スーパー(*2)	0.1	0.6	0.1	0.4
コンビニ(*2)	6.7	6.6	6.7	6.7
乗用車(*3)	2.0	16.0	5.4	19.2
(季節調整値)(*3)	1.0	1.6	12.9	2.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

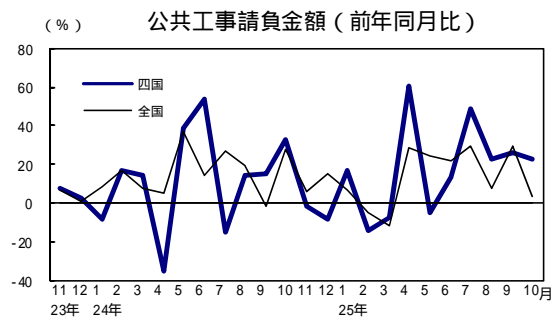
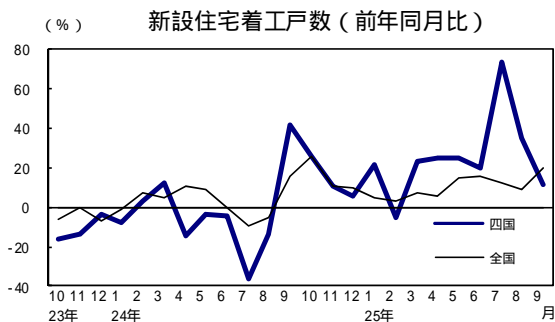
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計でみると前年度を上回っている。

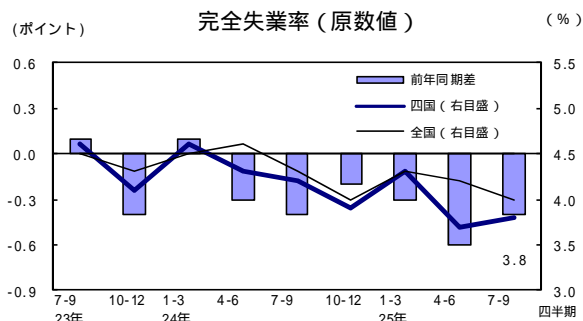
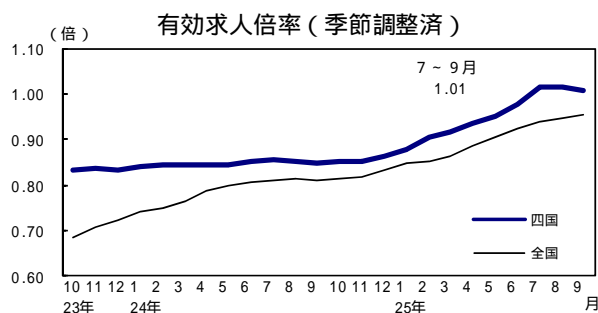


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

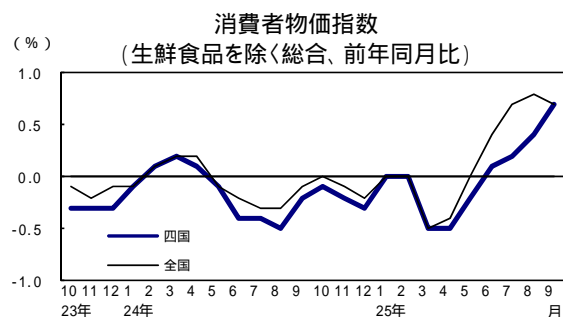
「年末にかけて営業販売等での人材のニーズが増加傾向にある（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	24年10-12月	25年1-3月	4-6月	7-9月	25年10月
倒産件数	69	60	53	44	12
（前年比）	19.0	16.7	15.9	36.2	60.0
負債総額	156	102	123	70	34
（前年比）	30.2	27.7	11.4	64.2	64.5



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・台風の影響で来客数は少なかったが、高額商品の好調は続いている（百貨店）

<先行き>

- ・国内消費は消費税増税、東京オリンピックも睨んだ前倒しの需要が期待される。一方、輸出関連は受注回復傾向にあり順調に推移すると期待しているが、海外での地域差は大きく、動向を注視する必要がある（一般機械器具製造業）

